

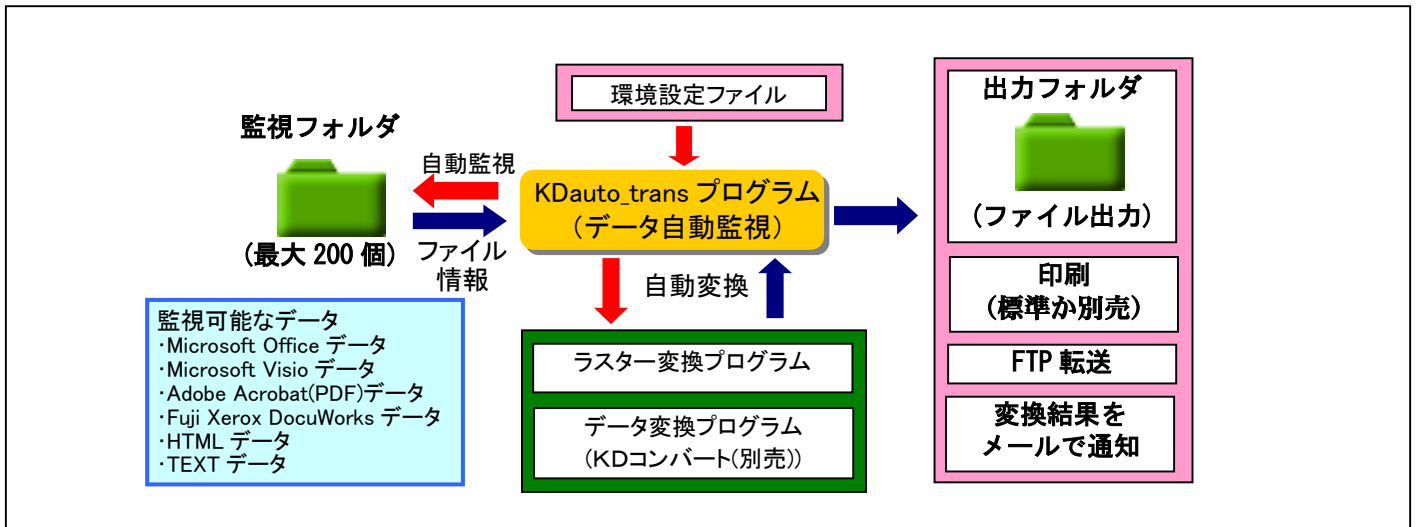
監視付き変換ソフト

KDauto_transPDF機能強化版 for SharePoint



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>



【概要】

KDauto_transPDF 機能強化版 for SharePoint は KDauto_transPDF 機能強化版の機能に SharePoint と WebDAV への出力を追加した製品になります。

変換により作成されたファイルは Windows 配下のフォルダへ出力か SharePoint 上のドキュメントライブラリへ出力か WebDAV サーバー上のフォルダへ出力かを選択することができます。

【特長】

1. DTP ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換することが可能です。(DTP ファイルを読み込めるソフトが別途必要になります。WORD ファイルなら Microsoft Office、PDF ファイルなら Adobe Acrobat が必要になります) 変換可能な DTP ファイルの拡張子と変換に必要なソフトのバージョンは次の通りです。

DTP ファイル	バージョン	拡張子
MS-WORD	2000/XP/2003/2007	doc, rtf, dot, docx, dotx
MS-EXCEL	2000/XP/2003/2007	xls, xlw, xjs, csv, xlt, xlsx, xltx
MS-PowerPoint	2000/XP/2003/2007	ppt, pps, pot, pptx
MS-Project	2002/2003/2007	mpp, mpt
Microsoft Visio	2000/2002/2003/2007	vsd, vss, vst
Adobe Acrobat (PDF)	5.0/6.0/7.0/8.0/9.0	pdf
FujiXerox DocuWorks (XDW)	5.0/6.0/7.0	xdw
HTML		html, xml
TEXT		txt

2. PDF ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換するには Adobe Acrobat が必要になります。Acrobat SDK を使用して PDF ファイルの用紙のサイズと用紙の向きを取得するため変換結果の用紙サイズと用紙の向きが変換元の PDF ファイルと同じになります。(KDauto_trans 機能強化版では用紙のサイズと用紙の向きが合わない場合があります)

3. PDF ファイルからイメージ抽出を行い、そのイメージを変換して出力することが可能です。
 イメージが無いページは白紙ページになります。一部分のみイメージの場合はイメージの部分のみ出力されます。
 JPXDecode (JPEG2000), JBIG2Decode (JBIG2) で圧縮されている場合は変換できません。
 KDriver を使用して PDF ファイルを変換する場合と PDF ファイルからイメージを抽出する場合での違いは以下のようになります。

PDF ファイルの内容	KDriver から変換	イメージ抽出から変換
ベクター (文字や罫線など) データ	変換可	白紙
ラスター (イメージ) データ	変換可	変換可
ベクターラスター混在データ	変換可	ラスター部分のみ変換可
大判データ	出力解像度を低くする必要がある	出力解像度を低くする必要はない
Adobe Acrobat	必要	不必要
PDF 上で回転・歪みのあるデータ	見た目通りに変換	見た目と異なる場合がある
カラーイメージデータをモノクロで出力する場合のディザ処理	パターンディザ	ディザなし、誤差拡散、パターンディザから選択

4. 複数の DTP ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換してひとつのファイルに纏めることが可能です。
 ラスターファイルは TIFF などのマルチページが可能なフォーマットである必要があります。
5. 監視ディレクトリ毎にラスターファイルの変換方法を指定することが可能です。
6. 監視ディレクトリを最大 200 個まで指定できます。
 監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順からファイル名の昇順でピックアップされます。
7. 監視ディレクトリはローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することが可能です。
 共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
8. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間、監視有効、監視無効の設定が可能です。
 監視ディレクトリの監視有効、監視無効の設定は KAuto_trans 実行中でも変更することが可能です。(実行中に監視無効に変更した場合は、変更前にピックアップされていたファイルについては変換処理を行います)
9. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイルを処理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
10. 監視ディレクトリ毎に任意の出力先を指定することが可能です。
11. 出力先は Windows 配下のフォルダ (ローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも可) か SharePoint 上のドキュメントライブラリか WebDAV サーバー上のフォルダかを指定することが可能です。
 共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
 SharePoint と WebDAV はログインするためのユーザー名とパスワードが必要となります。
12. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。Windows 版は監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名 + 指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名 + 日付 + 指定拡張子、日付 + 指定拡張子の 3 種類から選択できます。
13. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XML フォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
14. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理が NG の時のみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。変換処理が NG の場合は変換元ファイルをメールに添付することができます。
15. 処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。プリンタドライバ経由 (データ変換は行わない) で印刷を行います。処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
 弊社の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です (例えば KDprintout for driver など。印刷関連製品を組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい (別売))。
 弊社以外の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です (例えば lpr.exe など)。使用できる印刷プログラムはコマンドプロンプト上からコマンドラインで実行可能なこと、コマンドラインの形式が「出力プログラム名 オプション 出力ファイル名」であることが条件となります。画面操作が必要なプログラムは使用できません。
16. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して「特長 1 と特長 2」以外のデータ変換を自動処理することが可能です。殆どの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。
 (購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい)
17. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して「特長 3」以外の複数のフォーマットからなるファイルを特定のフォーマットのファイルに纏めて出力することができます。
 (購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい)
18. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して対になる 2 つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能 KD コンバートシリーズは HPMGHP、PDFMGPDF、XDWMGXDW です。
19. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能 KD コンバートシリーズは HPLAYHP、RSCMP3RS です。
20. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して大判サイズのデータを定型または任意のサイズに分割することが可能です。分割可能 KD コンバートシリーズは RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST です。

- 2 1. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して変換元データの情報を変換と同時に出力することが可能です。情報出力可能 KD コンバートシリーズはラスター変換プログラム（RS**）、DICOM 変換プログラム（DCM**）です。ラスター変換プログラムでは Exif 情報を、DICOM 変換プログラムではタグ情報を出力します。変換元データにこれらの情報が無い場合は変換エラーとなります。
- 2 2. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）で使用する設定ファイルを変換ファイルに合わせて自動的に選択して変換することが可能です。変換前に任意に指定したディレクトリに、変換ファイルと同名の設定ファイル（拡張子は任意）を作成しておく必要があります。設定ファイルが存在しない場合は変換エラーとなります。**(Windows 版のみ)**
- 2 3. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大 8 個まで指定できます。フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
- 2 4. フォーマットの自動認識（1 8.）を行う場合に、指定外の拡張子を持つファイルをエラーにするか無視するかを選択できます。無視にした場合は、そのファイルは監視ディレクトリから削除されません。**(Windows 版のみ)**
- 2 5. KDauto_transPDF 機能強化版 for SharePoint の環境設定は GUI 画面から設定を行います。

KD コンバートシリーズとの組み合わせ例

1. KDraster コンバート（ベクター/ラスター）を購入して組み合わせることによって DXF/DWG/HP-GL/OFI 等のファイルを TIFF 等のラスターファイルに変換することが可能になります。
2. KDraster コンバート（ラスター/ラスター）を購入して組み合わせることによって TIFF, JPEG, BITMAP 等のラスターファイルを TIFF, JPEG, BITMAP 等のファイルに変換することが可能になります。
3. KDprintout for driver（プリンタドライバ経由の印刷）を購入して組み合わせることによって、DXF/DWG/HP-GL/HP-GL2/OFI/Raster ファイルを任意のプリンタへ印刷することが可能になります。

【機能一覧】

KDauto_trans 機能強化版 for SharePoint の機能一覧です。

機能	OS	
	Windows	
	コマンドライン、 常駐プログラム起動	サービス起動
DTP ファイル変換処理(※1)	○	×
PDF ファイルからイメージ抽出	○	×
監視ディレクトリ最大数	200 個	200 個
SharePoint/WebDAV 出力	○	○
監視ディレクトリの開始終了	○	○
監視ディレクトリの有効無効	○	○
階層処理	○	○
出力ファイル名(※2)	○	○
履歴の作成	○	○
メール送信	○	○
プリントマネージャで印刷(※3)	○	○
任意プログラムで印刷(※4)	○	○(※5)
KD コンバートシリーズで変換(※4)	○	○(※5)
複数ファイル処理 (※6)	○	○(※5)
比較処理(※7)	○	○
レイアウト処理(※8)	○	○
分割処理(※9)	○	○
ファイル情報出力(※10)	○	○
FTP 転送	○	○
環境設定を GUI で行う	○	○

※1：PDF ファイルの場合は Acrobat SDK を使用して用紙のサイズと向きを合わせることができます。

Acrobat5.0 以降がインストールされている必要があります。Acrobat Reader は不可。

※2：Windows 版は監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋日付＋指定拡張子、日付＋指定拡張子の3種類が指定できます。

※3：出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに KD コンバートシリーズの変換処理で変換する必要があります。

※4：別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※5：DTP ファイルを変換・印刷する場合はサービス起動を行えません。

※6：DTP ファイルをラスターファイルに纏める以外の処理を行う場合は、別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※7：Windows 版は HP-GL 同士、HP-GL/2 同士、PDF 同士、DocuWorks 同士のファイルが比較可能です。

別途 HPMGHP (HP-GL 同士、HP-GL/2 同士)、PDFMGPDF (PDF 同士)、XDWMGXDW (DocuWorks 同士) を購入する必要があります。

※8：HP-GL、HP-GL/2、ラスターファイルがレイアウト可能です。

別途 HPLAYHP (HP-GL、HP-GL/2)、RSCMP3RS (ラスター) を購入する必要があります。

※9：ラスターファイルが分割可能です。

別途 RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST を購入する必要があります。

※10：ラスター、DICOM ファイルが可能です。

別途ラスター変換プログラム (RS**)、DICOM 変換プログラム (DCM**) を購入する必要があります。

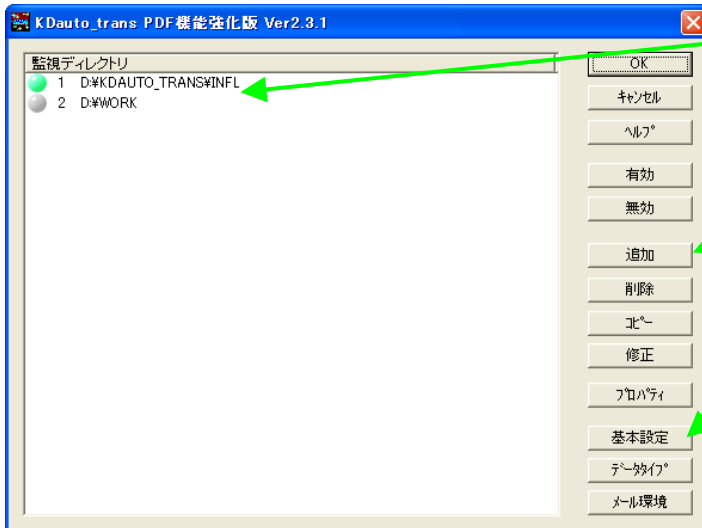
【環境設定】

KDauto_transPDF 機能強化版 for SharePoint の動作環境の設定は GUI 画面から行います。

環境設定ファイルを直接編集することは可能ですが、設定内容の入力ミスを少なくするためにも極力 GUI 画面から設定を行って下さい)

・環境設定画面

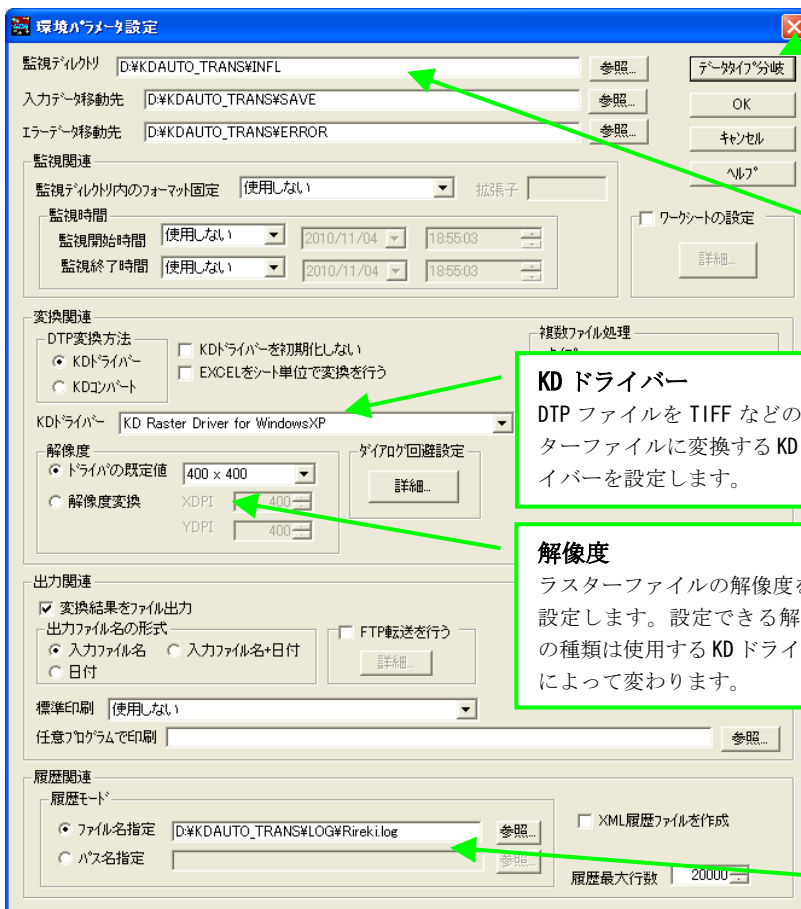
KDauto_transPDF 機能強化版 for SharePoint のインストールフォルダにある「ParaSet.exe」を実行します。



監視ディレクトリ一覧
監視ディレクトリの一覧が表示されます。監視ディレクトリの有効・無効、監視ディレクトリ番号、監視ディレクトリ名の順番で表示されます。

追加ボタン
新規に設定を追加する。クリックすると「環境パラメータ設定」ダイアログが表示されます。

基本設定ボタン
基本設定を行います。クリックすると「基本設定」ダイアログが表示されます。



データタイプ分岐
変換プログラムや出力ディレクトリを設定します。クリックすると「データタイプパラメータ設定」ダイアログが表示されます。

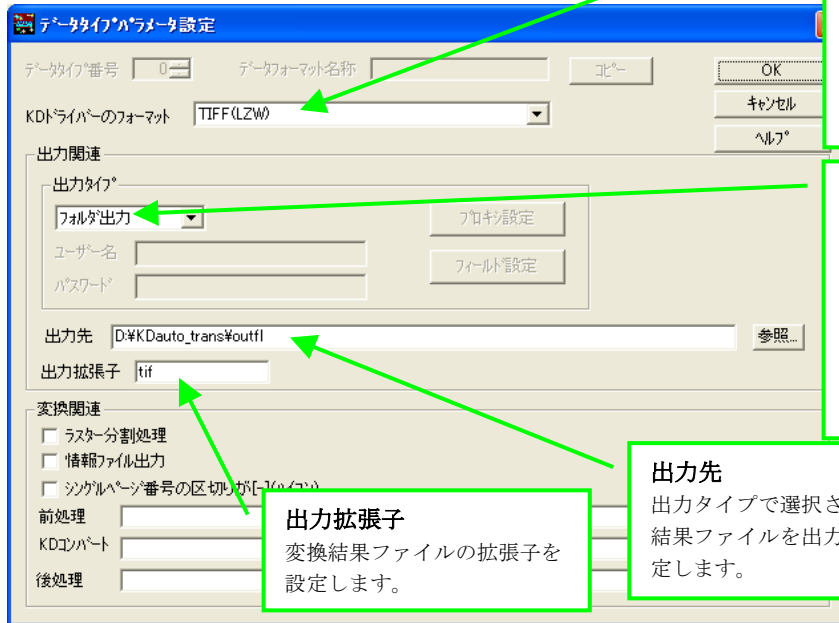
監視ディレクトリ
変換元ファイルがコピーされるディレクトリを設定します。処理終了後、変換元ファイルは削除されます。
入力データ移動先
処理が終了した後に変換元ファイルを保存するディレクトリを設定します。
エラーデータ移動先
変換処理がエラーになった場合に変換元ファイルを保存するディレクトリを設定します。

入力データ移動先とエラーデータ移動先の設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、変換元ファイルは保存しません。

KD ドライバー
DTP ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換する KD ドライバーを設定します。

解像度
ラスターファイルの解像度を設定します。設定できる解像度の種類は使用する KD ドライバーによって変わります。

履歴モード
履歴ファイルを作成して処理の結果を記述します。設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、履歴ファイルを作成しません。

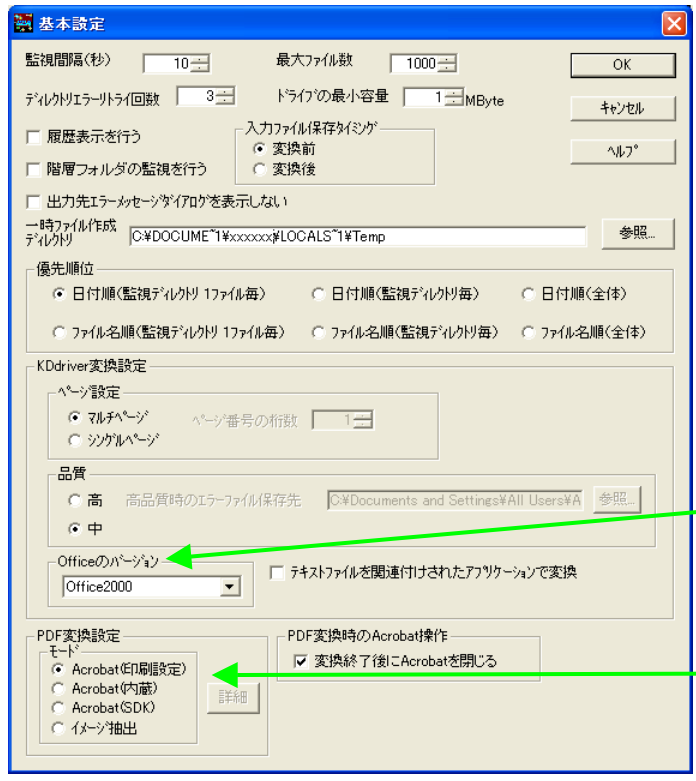


KD ドライバーのフォーマット
 DTP ファイルをどのフォーマットのラスターファイルに変換するかを設定します。
 設定できるフォーマットの種類は使用する KD ドライバーによって変わります。

出力タイプ
 出力先の出力タイプを選択します。
 SharePoint 出力または WebDAV 出力を選択した場合はユーザー名、パスワード、プロキシ設定、フィールド設定が設定可能になります。
 ※WebDAV 出力はフィールド設定を行えません。

出力拡張子
 変換結果ファイルの拡張子を設定します。

出力先
 出力タイプで選択された形式で変換結果ファイルを出力する出力先を設定します。



Office バージョン
 Office ファイルを変換する場合はインストールされている Office のバージョンを選択します。

PDF 変換方法の設定行う
 Acrobat に合わせた PDF ファイルの変換方法を設定します。
 Acrobat (内蔵)、Acrobat (SDK)、イメージ抽出を選択した場合は詳細ボタンから詳細設定が可能になります。

【注意する点】

- ・ Windows の OS を長時間（数ヶ月単位）再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバーの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。
長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので定期的な Windows の再起動を奨励いたします。
- ・ SharePoint への出力を行う場合、以下の製品で動作確認が取れています。
 - Windows SharePoint Services 3.0
 - Microsoft Office SharePoint Server 2007
- ・ WebDAV サーバへ出力を行う場合、以下の製品で動作確認が取れています。
 - IIS 6.0 または 7.0
 - Apache 2.0
- ・ Acrobat を使用して PDF ファイルを変換する場合は本製品が使用されるクライアントに Acrobat のライセンスが必要となります。Acrobat のライセンスについては、アドビシステムズ社のライセンス契約に準拠して下さい。本製品では Adobe Acrobat 製品は管轄外となります。
- ・ Acrobat SDK を使用した変換を行うことで Acrobat5.0 か 8.0 がインストールされている環境でも用紙サイズと向きを変換元ファイルと一致させて変換することができます。（Acrobat Reader 不可）
- ・ Acrobat Reader を使用して PDF ファイルを変換する場合はサーバーでの利用はできません。
- ・ PDF ファイルの図形の中で極細線のような細い線を使用している場合、ラスター変換後にその線が設定解像度によって（1 ドットに満たない場合など）は消えてしまうことがあります。
- ・ PDF ファイルからイメージを抽出する場合は JPXDecode (JPEG2000), JBIG2Decode (JBIG2) で圧縮されているイメージは抽出できません。
- ・ PDF 上で回転・歪みを使用して表示しているイメージを抽出した場合、抽出したイメージは PDF 上の表示と見た目が異なる場合があります。
- ・ タイリングパターンの一部として表示されているイメージは抽出できません。
- ・ 使用されている色空間によって、抽出後に色合いが変わることがあります。
- ・ DTP ファイルを変換時にダイアログが表示されてキー入力待ちになり処理が停止する場合があります。このような状態になった場合はダイアログをキャンセルして閉じようとしませんが、キャンセルできずにこの状態のまま処理が停止したままになることがあります。また、ダイアログがキャンセルできても変換そのものはエラーになる場合があります。
- ・ セキュリティの設定されているファイルは変換できません。
- ・ KDraster Convert, KDcad Convert, KDprint Convert を使用して変換する場合、一部のオプションは使用できなくなります。使用できなくなるオプションはファイルをまとめて処理するようなオプションで、-BATCH, -MERGE 等です。

【自動起動（Windows 版のみ）】

1. スタートアップに登録することでログイン後に自動起動することができます。
2. サービスに登録することでマシン起動後、ログオフ状態で自動起動することができます。
(DTP ファイル (WORD, EXCEL, PDF など) を変換するような場合には使用できません)
3. サービス登録以外の方法でログオフ状態の自動起動には対応していません。

【対応マシン】

Windows2000, WindowsXP, Windows Server 2003

【価格】

KDauto_trans (PDF 機能強化版) for SharePoint : 45 万円 (税抜き)

※KDraster Convert、KDcad Convert、KDprint Convert, KDprintout for driver は別途購入が必要です。

※KDauto_transPDF 機能強化版には KDdriver for Windows2000 または XP、Vista が同封されています。